



九州大学×科学コミュニケーション 「伝える喜び 伝わる喜び ～双方向コミュニケーションの場を造る～」

九州大学社会連携推進室科学コミュニケーション推進グループ(Q-STRING)は、九州大学内外で行われる科学コミュニケーション活動の支援を目的に新しく設置されました。

この度、Q-STRINGでは、人文社会科学系も含む科学コミュニケーションの意義と重要性を共有するとともに、社会連携推進室の存在と活動ビジョンを知ってもらい、より風通しの良い大学、社会に開かれた大学を実現することを目指し、標記シンポジウムを開催する運びとなりましたので、下記の通りご案内いたします。詳細は別添のチラシをご確認ください。

1. 日 時：令和3年9月7日(火) 15:00～18:00
2. 実施方法：オンライン
3. 対 象：九州大学の教職員・学生、研究者、一般の方
4. 参加費：無料
5. 申込方法：ご参加希望の方は各自、申込専用サイト (<https://bit.ly/3i9alT7>) からお手続きください。

【報道関係者の方へ】※当日、取材(オンライン)いただく場合のご案内です。

- ・上記シンポジウムの閉会后(18:00～)に15分程度取材(zoom)をお受けします。
- ・ご希望の方は事前申し込みをお願いします。9/3(金)までに広報室あて社名・職名・氏名・連絡先をご連絡ください。(koho@jimu.kyushu-u.ac.jp) 追ってzoomのアドレスをお知らせいたします。
- ・取材にあたっては本学担当の指示に従ってください。
- ・取材開始は、シンポジウムの閉会時間によって前後します。18:00までにご入室の上、お待ちください。なお、遅れる場合は、zoom内のチャットでお知らせいたします。
- ・シンポジウムご聴講される場合は別途、上記申込専用サイトからお申し込み願います。

【当日のスケジュール】

15:00～16:00

開会のご挨拶：福田 晋 九州大学理事・副学長、九州大学社会連携推進室 室長
推進グループの紹介：吉岡 瑞樹 九州大学先端素粒子物理研究センター、Q-STRING グループ長

第1部 科学コミュニケーションのある社会

- ◆基調講演「鳥の目 虫の目 科学の目」元村 有希子(毎日新聞 論説副委員長)
- ◆レクチャー「What is 科学コミュニケーション How to 科学コミュニケーション」
小林 俊哉(九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター)

16:05～17:00

第2部 伝える喜び、伝わる喜び。学内外事例紹介

17:10～18:00

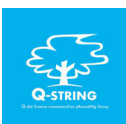
第3部 「双方向」な場を造ろう

- ・パネルディスカッション ーどう造る？どう話す？どう巻き込む？
- ・今後のQ-STRINGの活動紹介、その活動への参画の仕方について

閉会のご挨拶

18:00～18:15(目安)

メディア取材 ※zoom(別室をご用意しています)



【お問い合わせ】九州大学社会連携推進室 科学コミュニケーション推進グループ

TEL:092-802-2301(問い合わせ担当/真藤)

Mail:syarenkei@jimu.kyushu-u.ac.jp

科学コミュニケーション 推進グループとは

科学コミュニケーションの活性化を目的に、
社会連携推進室内に2020年4月に設置されたグループです。

グループ長あいさつ 吉岡 瑞樹(先端素粒子物理研究センター)

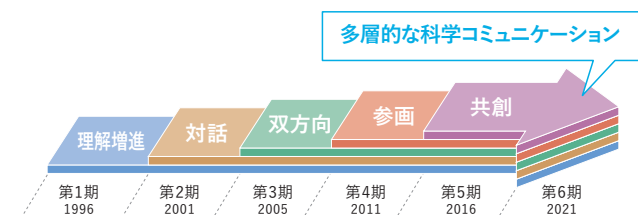
現代において、我々研究者が創出する新たな知と技術は、社会に大きく影響を与えます。同様に、研究や我々自身も、社会の影響を大きく受けています。そのため、我々研究者には、社会や人々と信頼関係を構築し、相互理解をなすことが欠かせません。

そこで必須となるマインド(心構え)が、科学コミュニケーションです。科学コミュニケーションは、自然科学や人文・社会学など全ての学術領域に携わる研究者や専門家と、非研究者・非専門家との間でなされるべき、対等かつ双方向的なコミュニケーションのあり方です。

日本では、1995年に科学技術基本法が施行され、それに基づき策定された科学技術基本計画により、これまで5期15年にわたり科学コミュニケーションの推進と定着が図られてきました。2021年からは多層的な科学コミュニケーションを推進する第6期が始まり、政府レベルでも科学コミュニケーションの振興が益々重要視されています。

本学では2008年度より「九州大学の教育研究における社会連携事業に関する基本方針」を掲げ、社会連携活動の取り組みを既に十年以上に亘って展開してきました。昨今の社会情勢を鑑み、こうした取り組みの一層の充実のために、このたび社会連携推進室に「科学コミュニケーション推進グループ」を新設しました。本グループでは今後、教員の皆様の科学コミュニケーションに関する活動の支援を幅広く展開して参ります。

「社会貢献」は「研究」、「教育」と並ぶ大学の「第3の使命」です。本学構成員の皆様と科学コミュニケーションの意義と重要性を共有し、社会に開かれた大学を実現する一助となれば幸いです。



組織図

九州大学社会連携推進室
室長：福田 晋 理事
副室長：村上 洋子 理事
清須美匡 副理事

科学コミュニケーション
推進グループ
Q-STRING

社会連携推進グループ

グループ長 吉岡 瑞樹(素粒子センター)

室員 井上 美穂(総務部)

協力教員	伊藤 浩史(芸工)	金 政浩(総理工)
鵜木 元香(生医研)	小林 俊哉(CSTIPS)	
岸村 顕広(工)	房 賢貞(農)	
木下 寛子(人環)	三島美佐子(博物館)	

アドバイザー	小林 良彦(北大・CoSTEP)	三和 正人(学産本部)
松本 祐典(ピノー)		

事務補佐員 真藤 正人(総務部)



シンボルマークについて



樹木の幹は、手を広げプレゼンテーションを行う研究者の姿です。樹木の葉は、研究者と知識を共有する市民であり、相互に議論し気づきを生み出す様=科学コミュニケーションを表現しました。

お問い合わせ先

九州大学社会連携推進室
TEL : 092-802-2301
mail : syarenkei@jimu.kyushu-u.ac.jp



2021.8



Q-dai Science communication pRomoting Group

九州大学社会連携推進室 科学コミュニケーション 推進グループ



九州大学

活動事例

サイエンスカフェ

科学者と市民が対等な立場で科学の話題を共有したり、対話できる場です。カフェや店舗などリラックスした雰囲気です。



異分野交流

異なる専門を持つ研究者の出会いの場を作ります。本学教員有志が運営する「いきものサロン」では、生物の専門家の話題提供に対して、様々な分野からの質問や議論が行われています。



科学コミュニケーションを
活性化させる

3つの活動

全ての本学構成員が、
科学コミュニケーションの意義と重要性を共有し、
一般の方との協働的・共創的な交流を促す
基盤を構築するために、
以下の3つの活動を展開します。

サイエンスアゴラ

科学技術振興機構(JST)が、毎年11月に東京で開催している科学コミュニケーションイベントです。産学官民から中高校生まで、幅広い参加者を集めています。



シチズンサイエンスの推進

一般の方が参加したり、主役になれる科学研究活動、それがシチズンサイエンスです。私たちは一般の方と共に創り上げる科学の推進に取り組んでいます。



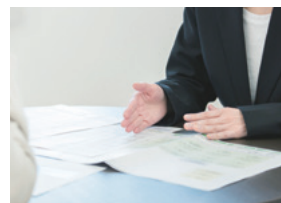
調査・分析

アンケート等によって、本学における科学コミュニケーションの現状を調査・分析します。



相談・支援

本学構成員と一般の方との信頼関係を構築し相互理解をなす科学コミュニケーションの実践と場づくりを支援します。



提言・FD

本学における科学コミュニケーションに関する提言をしたり、実践におけるスキルアップに関わる講習(FD)を行います。





九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



Q-STRING

Q-dai Science communicaTion pRoMotInG Group

九州大学社会連携推進室
科学コミュニケーション
推進グループ

設置記念公開シンポジウム



九州大学 × 科学コミュニケーション

伝える喜び 伝わる喜び

双方向コミュニケーションの場を造る

2021 9/7 火 15:00-18:00
参加費無料 / 要事前申込

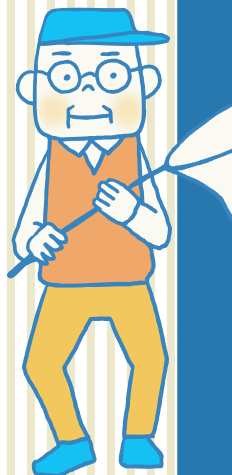


会場 日本ジョナサン・KS・チョイ文化館（九州大学 伊都キャンパス）

実施方法 [会場参加] 定員 60 名（完全招待制）
[オンライン参加] 要事前申込（オンライン参加者のみを募集）

対象 教員、研究員、職員、学生、一般

申込方法 要事前申込 / 申込専用サイトをご利用ください
<https://bit.ly/3i9aIT7>



【主催】九州大学、九州大学社会連携推進室

【運営協力（五十音順）】九州大学科学技術イノベーション政策教育研究センター（CSTIPS）、九州大学学術研究・産学官連携本部（AiRIMaQ）、
九州大学人社協働研究・教育コモンズ、九州大学総合研究博物館、九州大学筑紫地区地域連携推進チーム

【技術協力】九州大学病院アジア遠隔医療開発センター、九州大学付属図書館付設教材開発センター

【後援（五十音順）】糸島市、大野城市、科学技術振興機構（JST）、九州オープンユニバーシティ、九州経済調査協会、九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）、福岡市

科学と人と社会 その架け橋を目指して

Q-STRING（九州大学社会連携推進室科学コミュニケーション推進グループ）は、九州大学内外で行われる科学コミュニケーション活動の支援を目的に新しく設置された部門です。ボーダーレスにコミュニケーションが行われる現代において、研究者が創出する新たな知と技術は、社会に急激な影響を与えます。同様に、研究者自身も社会の影響を大きく受けており、研究と社会の関係は、以前にも増して密接なものとなっています。大学と社会の良好な相互理解と信頼関係が求められているのです。そのために、研究者には一般の方々と双方向対話を平易な言葉で行うマインド（心構え）が必要です。また、一般の方々には対等な立場で研究者と対話できる場が提供されるべきです。本シンポジウムを皮切りに、皆様が科学コミュニケーションの意義と重要性を共有され、一人ひとりが当事者として対話の機会を創出し、豊かで明るい未来を共創できれば良いとQ-STRINGメンバー一同考えております。

第1部

科学コミュニケーションのある社会 15:00~16:00（予定）

本シンポジウムを記念し、科学と社会の関係についてジャーナリストの視点から発信していらっしゃる、毎日新聞 論説副委員長として大活躍中の元村有希子氏から基調講演していただきます。また、科学技術社会論がご専門の小林俊哉氏から、科学コミュニケーションとは何か、そしてその現状と展望についてレクチャーしていただきます。

開会のご挨拶 福田 晋 九州大学理事・副学長、九州大学社会連携推進室 室長

推進グループの紹介 吉岡 瑞樹 九州大学先端素粒子物理研究センター、Q-STRING グループ長

基調講演「鳥の目 虫の目 科学の目」



元村 有希子

毎日新聞 論説副委員長

北九州市生まれ。1989年、九州大学教育学部卒業。毎日新聞西部本社を経て2001年、東京本社科学環境部。日本の科学技術と社会との関係をつづった連載『理系白書』により06年、第1回科学ジャーナリスト大賞を受賞。著書に『カガク力を強くする!』（岩波ジュニア新書）など。

科学にはいろんな顔があります。好き嫌いも人それぞれです。研究成果ひとつとっても、紋切り型の手法で発信してよしとするのでは、伝えたことにはなりません。そもそも「伝える」と「伝わる」ことは違います。また、科学を社会という文脈に置き、その重要性や役割、限界まで見極める力が、いつそう問われる時代になっています。科学コミュニケーションの意義と楽しさ、難しさについて考えます。

レクチャー「What is 科学コミュニケーション How to 科学コミュニケーション」

わが国の科学技術政策の根幹を定めた「科学技術イノベーション基本計画」では、大学等の教育研究機関が社会との科学コミュニケーションを活発に行うべきことを定めていますが、その実態はどうなっているのでしょうか。今回は科学コミュニケーションの現状と未来を展望します。

小林 俊哉

九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター

8年間広告会社に勤務した後、1992年から2002年までシンクタンクで科学技術政策研究に従事した。2002年から国立大学に異動。東京大学先端科学技術研究センター、北陸先端科学技術大学院大学、富山大学を経て2012年4月より現職。専門分野は科学技術政策、科学技術社会論。



第2部

伝える喜び、伝わる喜び。学内外事例紹介 16:05~17:00 (予定)

学内外で科学コミュニケーション活動に取り組まれている方々、特に科学コミュニケーションを専門にする方、様々な分野の研究者や学生、附属図書館スタッフの方々などから「伝える喜び、伝わる喜び」の実例を共有していただくとともに、現状で感じる課題について共有をはかります。



北海道大学 CoSTEP コーステップ

小林 良彦

北海道大学 CoSTEP
九州大学 社会連携推進室
科学コミュニケーション推進グループ アドバイザー
<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp>



CoSTEP 受講生 ライティング実習の様子

北海道大学 CoSTEP (Communication in Science & Technology Education & Research Program) では、学内外から広く受講生を募集し、科学技術コミュニケーションを担う人材養成を行なっています。人材養成は、科学技術コミュニケーションの教育・研究・実践を互いに有機的に関連づけつつ、実施しています。今回は、北海道大学 CoSTEP の概要と、サイエンス・カフェ札幌について、そして、私たちが実施しているサイエンスライティング教育について紹介します。

サイエンスカフェ@ふくおか

吉岡 瑞樹 九州大学 先端素粒子物理研究センター
<https://sciencecafefukuoka.jimdofree.com/>



サイエンスカフェとは、科学者と一般の方が対等な立場で科学の話題を共有したり、対話できる場です。カフェや店舗などリラックスした雰囲気で行なわれることが多いです。講演者と参加者の距離をできる限り縮めて、気軽に質問できる場を提供しています。

いきものサロン

津守 不二夫 九州大学 工学研究院・航空宇宙工学部門
<https://bit.ly/2UizCY2>



いきものを中心とした話題を専門家に提供してもらいながらも、参加した専門外の素人との活発な双方向のやりとりが魅力です。大学の研究者から、学外からはいきもの好きな主婦まで、毎回いろいろな分野から参加者が集まります。現地での観覧会を開催することもあります。

ゲイコウ アート&サイエンスカフェ

伊藤 浩史 九州大学 芸術工学研究院

大橋キャンパスにある芸術工学部は作品をつくる芸術家と研究を行う科学者からなるユニークな組織です。毎年キャンパス公開にあわせてアート & サイエンスカフェを開いています。キャンパス内で繰り広げられている芸術家と科学者の分野を超えた対話にコーヒー片手にご参加いただけます。



筑紫地区地域連携推進チーム

金 政浩 九州大学 総合理工学研究院

「筑紫地区全体(総合理工学府+先端物質化学研究所+応用力学研究所+Global Innovation Center+ 中央分析センター)」と「各団体(小中学校・高校および地方自治体など)」を一本の線でつなぐ筑紫地区地域連携推進チームが新たに発足。現在、大野城市との地域連携協定に基づくサイエンスカフェ「ここふるカフェ」を企画・実施中。



九大生の教える科学教室 from iTOP アイトップ

石田 匠 九州大学 工学部機械航空工学科 4 年
<https://itopitoshima02.wixsite.com/itoshima-info>



iTOP は「学生と地域をつなぐまちづくり」をモットーに、食、観光、教育、ソーシャルビジネスなど多様な切り口から糸島の地域活性化に取り組んでいます。科学教室部門は、糸島の小学校や公民館などで、科学教室やサイエンスショーを開催しています。

Quricon キュリコン

上土井 宏太 九州大学 附属図書館
学術サポート課 学習・研究支援係
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/quricon>



Quricon は文理問わず様々な分野から学生が集まり、自身の研究を紹介する学際交流イベントです。2011 年の設立から今年で 10 年を迎え、これまで 30 回以上のイベントを企画してきました。現在、実行委員を募集中です。ご興味のある方は附属図書館までご連絡ください!

第3部

「双方向」な場を造ろう 17:10~18:00 (予定)

第 2 部の講演者をパネリストに迎え、事例紹介の内容を踏まえつつ、幅広い方々が関わりうる場造りについて議論するとともに、Q-STRING が今後どのような活動を展開するかについてご紹介します。

パネルディスカッション —どう造る? どう話す? どう巻き込む?

今後の Q-STRING の活動紹介、その活動への参画の仕方について

閉会のご挨拶



Q-dai Science communication pRoMoTiNg Group

九州大学社会連携推進室 科学コミュニケーション推進グループ

▶ 科学コミュニケーションを活性化させる 3 つの活動

1 調査・分析

アンケート等によって、本学における科学コミュニケーションの現状を調査・分析します。

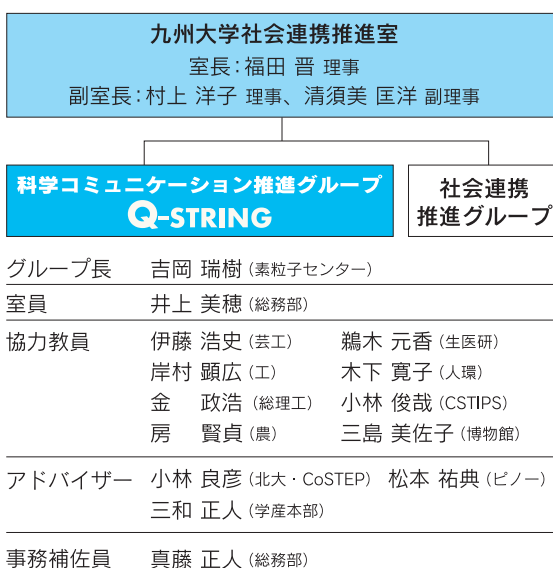
2 相談・支援

本学構成員と一般の方が互いにわかり合い、信頼関係を構築するための場づくりや、科学コミュニケーションの実践についての支援をします。

3 提言・FD

本学における科学コミュニケーションに関する提言や、実践に必要なスキルなどの講習 (FD) を行います。

▶ 組織図

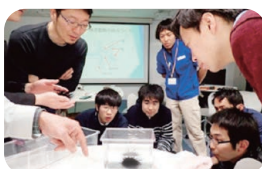


▶ 活動事例



サイエンスカフェ

科学者と市民が対等な立場で科学の話題を共有したり、対話できる場です。カフェや店舗などリラックスした雰囲気で行います。



異分野交流会

異なる専門を持つ研究者の出会いの場を作ります。写真の「いきものサロン」には、様々な分野・立場の方が参加しており、異分野交流ならではの活発な議論が行われています。



シチズンサイエンスの推進

一般の方が参加したり主役になれる科学研究活動、それがシチズンサイエンスです。私たちは一般の方と共に創り上げる科学の推進に取り組んでいます。

▶ 科学コミュニケーションの場作りと実践に取り組んでみませんか

一般の方と研究に
取り組んでみたい!

サイエンスカフェで話してみたい!

一般の方に話して、
わかってもらえる
かな...

私にもイベントが
組めるかなあ?

異分野交流
してみたい!



Q-STRING (九州大学社会連携推進室科学コミュニケーション推進グループ) では学生・研究者・企業・学校・一般の方を問わず、科学コミュニケーションに関心がある方の取り組みたい研究内容・様々な想いをうかがい、アドバイスを行ったり、研究者や専門家、学生、各団体との連携を手助けします。まずは下記連絡先までお問い合わせください。

お問合せ

九州大学社会連携推進室
科学コミュニケーション推進グループ

Q-dai Science communication pRoMoTiNg Group

〒819-0395 福岡市西区元岡744

[TEL] 092-802-2301 (問合せ担当/真藤 正人)

[E-mail] syarenkei@jimu.kyushu-u.ac.jp

[HP] cooperation.kyushu-u.ac.jp/sciencecommunication

